

宝塚栄光教会のクリスマス

クリスマスは、ぜひ教会にお出かけください。クリスマスの心を知って、あなたも神様の愛にふれてください。

12/22 (日)

10:30~11:40am クリスマス礼拝

毎年巡ってくるクリスマスですが、キリストの誕生がどんなに感謝なことかと喜びが満ちあふれます。あなたもぜひおいで下さい。(聖歌隊の賛美があります。)



1:30~2:30pm 燭火礼拝

(キャンドル・ライト・サービス)

キャンドルの光の中でささげる礼拝です。闇の中に輝く光としてお生まれくださったイエス・キリストを喜ぶ礼拝です。(聖歌隊の賛美があります。)



12/24 (火)

5:00~6:00pm

逆瀬川駅前キャロリング

逆瀬川駅前でクリスマスキャロルを歌います。どなたでも加わって歌ってください。大歓迎です。



6:30~8:30pm

ベアンテ・ボーマン
チェロコンサート

イヴの夜だから、チェロの豊かな音色が心に響きます。深い感動に包まれるイヴコンサートです。



ベアンテ・ボーマン(チェロ)

スウェーデンのファルン市で生まれる。ストックホルム王立音楽大学で最優秀賞を授与。ゴッデンブルグ市の国立歌劇場の首席チェロ奏者を務める。その後、ドイツの国立 Folkwang 芸術大学、フィンランドシベリウス・アカデミーで学ぶ。1980年より東京交響楽団で、首席チェロ奏者として活躍する。神学博士、全日本山岳写真協会会員。

ルリ子・ボーマン(ピアノ)

武蔵野音楽大学卒業後、ドイツの国立 Folkwang 芸術大学で学び、帰国後、ベアンテ氏と結婚。夫君の伝道コンサートでの伴奏や通訳を担当している。

教会からのオススメの一冊

「クリスマスに贈る100の言葉」

アルフレート・ハルトル 編／里野泰昭 訳
(女子パウロ会)

毎年クリスマスの時期になると、何だか心がうきうきしてきますね。誰もがクリスマスを楽しみにしています。確かに、クリスマスは楽しく、心弾むときです。でも、クリスマスの過ごし方は、それだけでよいのでしょうか。

イエス・キリストがお生まれになったときから、今年は2019年目のクリスマス。2000年以上もの間、世界中でクリスマスは覚えられ、祝われ、大切にされてきました。今回ご紹介する「クリスマスに贈る100の言葉」は、歴代のクリスチャンたちがクリスマスについて残した言葉を綴ったものです。中には、聖書の言葉や、4世紀の教皇、14世紀の聖人も含まれています。どの言葉も、クリスマスがどのようなときであるのかを、深く、鋭く表現しており、クリスマスに込められた意義を、私たちが改めて見つめ直すのに十分なヒントを与えてくれます。

楽しいクリスマスの合間に、少し心を静め、クリスマスの意味に思いを馳せてみる…。そんな過ごし方もよいかもしれません。

「神の子は人となった。人間が、神を受け入れることを学ぶために。神は、人間のあいだに生きはじめられた。」
イレネウス(2世紀の聖人)



元旦礼拝 2020年1/1 (水) 11:00~12:00

新年を神様の前から始めることは、大きな祝福になります。ご家族おそろいで、ぜひご出席ください。

Gloryカレンダー販売中

Gloryのエッセーと写真とともに、2020年を迎えませんか。神様に祝福された素敵な一年になりますように。

一部1,000円です。購入を希望される方はご連絡ください。郵送いたします。



宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル

毎週更新。24時間つながります。

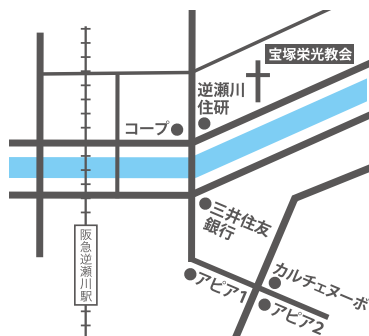
0797-77-3746

ポッドキャストでも配信！
ホームページから利用できます。

礼拝 毎週日曜日
10:30~11:40



わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく、正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。



まことの光が世に

イエス・キリストがユダヤのベツレヘムにお生まれになったころ、世の中は深い暗闇に包まれていました。ユダヤの国はローマ帝国に支配され、民衆は強圧的なローマに反感をいだき、急進的な考えを持つ者たちによる暴動が頻発し、そのたびにローマは武力で騒ぎを鎮圧し、民衆は反感をさらに増すという悪循環が繰り返されていました。

人々は、旧約聖書に預言された救い主がなかなか来られないので、いらだったり諦めたりして、何とも言えない重苦しい空気が国全体を包んでいました。

そんな時、キリストは、闇を破るようにお生まれになったのです。聖書にこうあります。「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた」(ヨハネの福音書1章9節)。キリストは、まさにすべての人を照らすまことの光として、この世に来られたのです。

暗闇とは何でしょうか。世の中の不正や罪悪のことではなく、私たち自身の心に覆いかぶさっている罪の闇です。表面上はきよく、明るく、正しい人間であるかのように振舞っ

ていても、一皮むけば自己中心で、冷淡で、傲慢な自分です。誰も見ていなければ平気で不正を行い、そ知らぬ顔をして口をぬぐって、また普通の生活に戻るという自分です。何と深い、底知れぬ闇が、私たちの心の中に巣くっていることでしょうか。そのままでは、私たちは確実に滅びます。

そういう私たちを救うために、キリストは、光としてこの世に来られました。光は暗黒の中にあるものを照らし出します。キリストは、私たちの心にある罪を照らし出して示します。また光は腐敗を除いてきよめます。キリストは、私たちの罪のために十字架にかかられました。私たちが十字架を信じるなら、私たちの魂から罪が取り除かれます。さらに光は冷たいものを温めます。キリストは、愛のない冷淡な私たちの心に神様の愛を与え、神と人を愛する者に造り変えてくださいます。

すべてのものを照らすまことの光として来られたキリストを、そのまま受け入れましょう。クリスマスは、そういう時です。



「ウメモドキ 梅擬き」

町のたたずまいも 行き交う人々の様子も
吹き抜ける風や 陽の傾きに 冬の訪れを思う

ウメモドキの赤は 冬になると 一段と濃くなってきた

春の新芽のとき 柔らかい黄緑色が美しくて 心がなごんだ

初夏のとき 葉のつけ根から 薄桃色の 小さな小さな花が咲いた
花は愛おしく いつまでも眺めていた

秋になって 赤い実をつけたが 日が増すと
その赤は 深い真紅の色へと変わっていった

やがて 落葉のときが来て この赤い実は びくともせずに
枝にぎっしりと付いて 残っていた

ウメモドキの枝ぶりが あらわになると 驚くほど美しい姿を見せてくれた

なんと四季にわたり 楽しませてくれる ウメモドキだ
梅の名前がつけられているが 梅の仲間ではなく
クリスマスホーリー（セイヨウヒイラギ）と同じ仲間の木だった

どちらも赤い実をつけて 喜んでいる者たちと共に 喜んでくれているようだ

しかし 時が満ちると 神は その御子を女から
しかも 律法の下に生まれた者として お遣わしになりました
それは 律法の支配下にある者を贖い出して
わたしたちを神の子となさるためでした

ガラテヤ4章（聖書）